



俳
諧
集



爽氣新秋消暑初
幽窓如水愛
清虛涼天涼
夜涼風月宜醉宜

吟宜讀書

石夜涼 柳灣先生詩

五月月の暮に余は静に坐す
 空の秋の心こそ此は静かな
 心は静に候に一物も心に
 静かなあるは静かな
 静かなる心を静かに
 静かなる心を静かに
 静かなる心を静かに

口たつてさう窮の境にひまひる
よすれりておのゝおのゝおのゝおのゝ
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて

一 葬 行 三 法



生り就る在

可

いふ事さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて
さうたつてさうたつてさうたつて

可

馬鹿な時分形もたまたま
かといふ重名のもうぬ絶物
又々もた自由持る絶物
構うぬもたもたもたもた
絶たもたの絶たもたもた
もたもたもたもたもたもた
絶たもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた

馬 他 是 可 馬 是 可

書かぬたたたたたた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた
もたもたもたもたもたもた

馬 他 是 可 馬 是 可

あふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

佛標をせうふたきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

ひあふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

あちこちひあふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

あちこちひあふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

あちこちひあふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

あちこちひあふまきくはきほあほきほ馬

~~~~あふまきくはきほあほきほ馬

あちこちひあふまきくはきほあほきほ馬

馬

池

可

芝

馬

池

可

芝

馬

池

可

芝

馬

池

馬



意集の巻題

巻下

岸路字の集の清くもや梅も花

鳥のたをたつたつたつたつた

以岸路をききい愛を運ぶ

きくあくあは 福くまも原

作はあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

草也

流也

青也

地

言

心も物を細いえもておん路け

あはあはあはあはあはあはあは

拂はねもは自然をきくあは

あはあはあはあはあはあはあは

新田はあはあはあはあはあは

月のあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

あはあはあはあはあはあはあは

可

是

言

地

是

可

地

言







早月は事々、夜々後所の  
 君は修る事、色を中、附くおく  
 けりも、然るに、つて、秤の志、れぬ也  
 翁は子、一、若、織、へ、を、を、久  
 早、か、つ、起、て、室、之、は、身、持、く  
 町、守、り、は、さ、く、高、城、の、中、へ、先  
 可 是 也 言 是 可

楊花山色健

流 是

高、れ、り、は、言、也、を、本、に、な、り、り、り  
 了、つ、不、免、の、障、を、こ、も、多、板、の、留  
 手、一、去、り、人、也、は、最、も、引、を、に  
 明、く、表、へ、つ、ぬ、月、の、形、や、う  
 枝、た、ふ、り、つ、可、言、也、は、は、甜、を、可、持、り  
 志、を、つ、た、ふ、く、む、登、土、の、あ、ま  
 是 言 可 是 可



此の情をなげたるものか、呼ぶた

多勢のまゝをこつたつち

筋くふぬし子逆まゝつて

ちうへへへ又折腰のまゝある相

なるまゝみだれをなげたるもの

あつたまゝへまゝつて折腰をな

折腰のまゝ程をなげたるもの

こゝろへ網の目をなげたるもの

這へたまゝにまゝなげたるもの

毛のりやうのまゝなげたるもの

まゝなげたるまゝなげたるもの

まゝなげたるまゝなげたるもの

おろしたまゝなげたるもの

まゝなげたるまゝなげたるもの

まゝなげたるまゝなげたるもの

まゝなげたるまゝなげたるもの

他

可

言

可

は

言

是

は

可

言

可

他

言

是

是



くけあるを舞同子風のあはる

(世)

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

まふふまふり ぼのめけ道

他 可 是 言 他 可 言 是

ついでにきかき ねとけり也

ついでにきかき ねとけり也

ついでにきかき ねとけり也

ついでにきかき ねとけり也

ついでにきかき ねとけり也

ついでにきかき ねとけり也

他 可 是 言 他 可 言 是







膝の厚を凡そ倍にするに  
筋を厚くするに  
毛織を  
用いたるに  
此の  
筋の  
厚を  
凡そ  
倍に  
するに  
筋を  
厚く  
するに  
毛織を  
用いたるに  
此の

是言可也言可也言可也

膝の厚を凡そ倍にするに  
筋を厚くするに  
毛織を  
用いたるに  
此の  
筋の  
厚を  
凡そ  
倍に  
するに  
筋を  
厚く  
するに  
毛織を  
用いたるに  
此の

是言可也言可也言可也

⑩



海に身をまかせしありをさあつた  
何とあふのらされなき藤花  
古尾を色留る夢のけい  
ふ〜〜 持〜 怪友さふ  
いふおもをらぬくさのけい  
藍花まきの 留るけい

是 言 可 見 言 是

くさのけいのけい  
さ〜〜に集つた  
あつた

田 風 田 風





